



沼中だより

10月号

2024年10月23日発行
逗子市立沼間中学校
校長 熊谷啓明

学校教育目標：「個」・「心」・「力」

○校長先生より○

＜政治的教養を育む授業～政治家にインタビューしよう＞

10月だというのに、つい先日まで夏のような暑さだったと思えば、ここ数日朝晩は特にずいぶん涼しくなった印象です。急な気温の変化に体調を崩さぬようにしたいものです。

逗子市は二学期制を採用していますので、10月11日(金)に前期終業式、10月15日(火)に後期始業式を行いました。前期終業式で「今月末にはとても大切なことがおこなわれます」と私からお話をしたところ、数人の生徒たちから「選挙」という声が聞こえてきました。新しい首相が誕生し、10月27日(日)に衆議院の解散総選挙が行われることとなりました。実は、さらに、「今年は世界中で大きな選挙が行われる」というお話をしようと思っていたのですが、終業式ではすっかり飛んでしまいました。1月は台湾総統選、3月はロシアの大統領選、4～5月はインド総選挙が行われました。また、11月には、みなさんもお存じの通り、アメリカ大統領選が行われます。これらの国々と日本は深く関わっているということをすでにみなさんはお存じだと思います。そう言った意味では、今年は日本の将来を左右するような選挙が世界各地で行われているのです。

しかし、残念なことに、バブル崩壊後の「失われた30年」のまっただ中に生まれた日本の若者たちは政治への期待や関心を失ってしまっているように感じられます。その証拠に、日本で行われる地方や国の選挙では、特に若者の投票率が低く、令和4年7月に行われた参議院議員選挙では、10歳代～30歳代の投票率は、30～40%台だったそうです。

終業式の話の中で「まだ中学生には選挙権がありませんが、中学生であっても今回の選挙には注目して、自分の将来に関わる大切な選挙であると考えて欲しい」と言うことを伝えたいつもりです。政治に関心であっても無関係ではられません。中学生であっても世界の情勢に注目し、日本は今後どういう道を歩むべきなのか今から考える必要があると私は思っています。日本の失われた時代を終わらせ、若者が夢や希望を抱けるような社会にするには、自分たち自身が政治に関心を抱き参加しようとする態度を育まなければならないと思っています。

「難しくわからないよ」という声が聞こえてきそうですが、自分たちの将来に関わることです。わからなければ、学校の授業を無駄にしないで勉強しましょう。特に社会の歴史、地理、公民などは大切です。政治に関心を持ち、数年後有権者となり選挙があった時には、しっかりと自分の意思で必ず投票をして欲しいと思っています。

第3学年の社会科の授業では、11月1日(金)に、昨年に引き続き「政治的教養を育む授業実践」として、政治家の方々を約10人講師としてお招きし、「政治家にインタビューしよう」という授業を行います。その授業の目的の一つは、早くて3年後みなさんが有権者になったときに、一人ひとりに渡される投票用紙を無駄にしないで、全員が選挙に行くことができるように準備をするということです。残念ながら今の日本は半分の有権者がその投票用紙をゴミ箱に捨てています。より多くの国民が政治に関心を持ち、投票率が70～80%以上になれば、政治家さんたちも、さらに真剣に我が国のために働いてくれると思うのです。

投票するのに、偏差値も学歴も関係ありません。3年生だけでなく、沼間中学校の生徒全員が、今回の選挙に関心を持ち、様々な意見や考えを学び、自分たちの住むわが町・わが国がより豊かになるにはどうしたらいいのか考え、政治に関心を持ち、今から選挙に行く準備をすることが大切だと考えています。ぜひ、ご家族や友だちと話すときに、今回の選挙を話題にして自分たちの将来について考えて欲しいと思います。

(文責 熊谷 啓明)